

## 4 テストから見取る

### ☆テストづくりは 授業づくりに通じる

テストは、生徒が学習活動で身に付けた成果を見取るものであり、言い換えれば生徒はどのようにものの見方や考え方を身に付けようとしていたのかをたどるものです。

つまり、テストづくりは授業づくりと密接な関係にあり、今日求められる学力観を踏まえた実践に基づいて行うことが大切なのです。

### ☆共通テストの留意点

評価の妥当性・信頼性を高めるために、科目ごとに共通のテストを実施することが求められています。それぞれ異なる授業を行う複数の教員が共通テストを行うためには、授業の実施前に、テストについての共通理解を持つことが必要です。試験範囲の確認に終わることなく、重視するポイントや授業での扱い方について事前に担当者同士で意見交換し、共通の目標を達成するための効果的なテストを実施するようにしましょう。

### 学校におけるテストとは

テストは、何のために行うのでしょうか。一般的には、「学習者の学力・能力を知るためのもの」と思われていますが、学校におけるテストの第一義は、「教員の教授活動の評価」のための資料収集です。生徒たちに教えた様々な事柄を、どの程度まで生徒たち個々が習得したかを見て、次の指導に生かす。ペーパーテストや実技テストなど形態は様々ですが、これが学校におけるテストの第一義です。

そしてもちろん、生徒自身が自分たちの達成度を知ること、テストの大きな目的の一つです。テストの結果を見ることによって、自分が現在何ができていて何ができていないのか知ることができ、次にどのような学習努力をすれば目標が達成できるのかについて、指針が与えられるものでなければなりません。

そのためには、それぞれの問題が「どのような知識・技能や能力等をテストしているのか」を、教員が意識して作問するのはもちろんのこと、生徒自身がはっきり理解できるようなテストを作成することが求められます。ペーパーテストの設問ごとに観点別のラベルを表示するのは、そのためです。

### 目標の実現状況を測定するテスト

日々の授業は、目標（本時、単元、学期、年間の目標、学校教育目標）を実現するために行います。そして、その目標がどの程度実現できているのかについて測定するのがテストです。つまり、「目標」と「授業で何を学習するのか」と「テストで何を測るのか」が、密接に結び付いていなければならないのです。

### 個別支援が 必要な生徒 への対応を 考えよう

#### 身に付けた資質・能力を見取るために

生徒の中には、書字に困難を抱える生徒や、文字認識に時間が必要な生徒、知的障害がある生徒など、様々な困難を抱える生徒がいます。また、けが等の理由により一時的に筆記が難しい状態にある生徒もいます。

例えば、解答用紙を拡大したり、試験時間を延長したり、問題を読み上げたり、問題用紙にルビを振ったりするなど、生徒の状態に応じた手立てを取ること、そうした生徒の学びの成果を見取る工夫ができます。個別の配慮を行う際の手順について、所属校の方法を事前に確認しておきましょう。

## ペーパーテスト作成の手順（例）

実際にペーパーテストをどのように作成していけばよいのでしょうか。具体的な手順例を示します。（所属校のルールを確認してみましょう。）

### ○学習目標を確認し、問題作成仕様をまとめる

学習活動を通して生徒に身に付けさせたい力を柱に、大問の構成など問題作成仕様をまとめます。このとき、観点が年間指導計画と一致しているか確認します。

### ○設問のバリエーションと生徒の「解答の流れ」の相関を考える

観点別学習状況の評価に即して生徒の学習成果を測る設問の形態を考えるとともに、予想される解答や記述を想定します。「思考・判断・表現」を見取る設問にするために、生徒が知識や技能を活用でき、理解を引き出す工夫があるとよいでしょう。

### ○解答用紙の作成と、配点・解答所要時間を確認する

設問に見合った解答スペースを確保し、小計欄を付すなど、テスト分析と活用資する集計方法を工夫します。

### ○採点基準を作成し、出題のねらいや解説をまとめる

採点基準を明確化し、出題のねらいを踏まえながら、生徒がどのように考えれば解答にたどり着くことができるかを確認します。

### ○問題用紙や解答用紙に誤りがないかどうか点検する

必ず複数体制で点検しましょう。

【参考資料】不祥事ゼロをめざして

神奈川県教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料Vol.99「定期試験・成績処理の事故防止」 令和元年6月 高校教育課、行政課



## 探究の道しるべ

左の「ペーパーテスト作成の手順（例）」を参考にして、次の活動に取り組みましょう。

① 五つの項目それぞれに要する日数・時間を推定しましょう。目星が付かない際は、同じ教科・科目を担当している教員と相談してください。

② 所属校の年間行事予定と照らし合わせ、各回の定期試験に向けた準備をいつから開始すると良いか、逆算して割り出しましょう。

③ 初めの定期試験が終了した時点で①で推定した日数と実際とを比較し、次回以降の準備日程について再調整しましょう。

\* 時間にゆとりをもって作成することは、テストの質の保証はもとより、事故防止にもつながります。

## 定期試験・成績処理の事故防止

定期試験や成績処理に関する業務は、学校の教育活動の根幹に関わるものです。一度のミスであっても、これまでに築き上げてきた生徒や保護者の学校に対する信頼を失わせることになりかねません。評定や観点別学習状況の評価の誤り、出欠席の記録等の誤りといった成績処理に係るミスは、生徒の進路を含めその後の人生に大きな影響を与えてしまうことも考えられます。適正なペーパーテストや成績処理の実施に向け、学校ごとの点検表等を用いて、できていない項目がないか確認し、適切な対応を心掛けて事故を防ぎましょう。